

平成25年度第三回森林環境保全基金運営委員会 議事録

開催日時 平成26年1月9日(木) 9時00分～12時00分
開催場所 高知共済会館 3階「藤」
参加者 (委員)
根小田渡委員長、堀澤栄副委員長、有光尚委員、片岡桂子委員、
川村純史委員、時久恵子委員、中井勇介委員、林須賀委員、
山中國保委員
(事務局：高知県林業環境政策課)
高橋課長、井澤課長補佐(木の文化担当)、福田主幹、吉田技師
(事業担当課)
鳥獣対策課：門脇チーフ、大野主任
林業改革課：吉門主任
木材産業課：谷脇チーフ、大家主査
環境共生課：倉野課長補佐、高橋主査
高等学校課：竹村課長補佐、宮川主幹
生涯学習課：瀬沼チーフ
欠席
門田芳穂委員

1. 議事

【1】平成26年度森林環境税活用事業の審議について

～予算全体(林業環境政策課)～

(福田主幹) 資料に基づき説明。

～公益林保全整備事業・みどりの環境整備支援事業(林業改革課)～

(吉門主任) 資料に基づき説明。

(根小田委員長)

国の新たな支援制度「環境林整備事業」では、森林所有者・市町村・森林組合等との協

定の締結が必須とあるが、国との協定なのか。

(吉門主任)

森林所有者が間伐できない箇所を森林所有者に代わって森林組合等が施業を行う事業なので、森林所有者、施業実施者、地方公共団体である市町村の 3 者が協定を締結するものである。

(根小田委員長)

協定の締結に時間がかかると思うが、年度内に予算の執行はできるのか。

(吉門主任)

予算の執行は可能と思っている。今年度から当事業の説明は始めており、協定の締結をも進めているところもある。26 年度に入ってから協定の締結が確実に進むものと思っている。

(根小田委員長)

国の政策は、政権によって変わる。できるだけ森林所有者の負担を減らすことを考えた場合、国の補助事業を活用し、森林環境税は上乘せに使った方がよいと思う。そのため、森林環境税の予算を公益林整備事業から、みどりの環境整備事業にシフトさせたと思う。

(片岡委員)

90%補助とあるが、今までの事業ではどのくらい補助していたのか。

(吉門主任)

国の造林事業の補助金が 68%、みどりの環境整備事業の嵩上げで約 22%継ぎ足し、概ね上限 90%見合いを補助していた。

(片岡委員)

補助率は森林所有者にとっては変わらないのか。

(吉門主任)

平成 25 年度と同様で変わらない。

(山中委員)

造林事業であって、植林は対象とならないのか。

(吉門主任)

間伐の事業を対象としている。植栽は、森林環境税ではなく、県事業で国の造林事業に嵩上げ 22%の補助を行い、90%見合いになるようにしている。市町村によっては、それにプラス 10%継ぎ足しをし、実質 100%補助にしているところもある。

(山中委員)

今は植林の苗木補助はしていないのではないか。

(吉門主任)

造林補助事業の採択要件に合えば、苗木も補助対象になる。今までも造林補助事業での補助があり、更に平成 24 年度から県の方で 22%嵩上げ支援をしている。

(根小田委員長)

事業の 1、2 について、了解してよろしいか。

(全出席委員)

異議なし。

(吉門主任)

ありがとうございました。

～集落ぐるみ捕獲推進事業(鳥獣対策課)～

(大野主任) 資料に基づき説明。

(山中委員)

平成 25 年度に配布した 5,000 個の効果はどうか。

(大野主任)

昨年 12 月初めに市町村への配布が終わり、12 月に集落に配り、ワナをかけてもらっている。県では 12 月に捕獲された頭数を 1 月中に集計予定。

捕れた情報は入っているが、多く捕れたという情報は入っていない。高知県でよく捕られる方に、試験的にワナを仕掛けてもらったところ、よく捕れた。しかし、一般の方にかけてもらった時は、先ほどのプロの方がかけたほどの成績には達していない。統一したワナを配布しているので、そのワナに不慣れな方もいると思われる。

(山中委員)

ワナの講習会を積極的に実施されたことは良かったと思う。

また、捕獲率は銃もワナも低いので、ワナを掛ける人を増やすために、森林組合などと一緒に県下的に取り組み、ワナの狩猟免許を取る人も一挙に増えたことも良かった。新品のワナは難しい面もあると思う。

ベテランの方の話を聞ける機会を今後も増やすと効果が出てくると思う。

(大野主任)

今年はワナを配布する集落を対象に50カ所で講習会を開催した。1回だけの講習で捕れるようになるのは難しいと思うので、来年以降も50カ所程度の講習会を実施できるよう計画している。何度も講習することで、捕獲率を向上できるようにしていきたいと考えている。

(門脇チーフ)

ワナを掛ける方の技術が上がるよう、ワナを配布する際にワナの名人の方を講師に招き、講習会を実施している。一例だが、高知市の方で、ワナを仕掛けた翌日に掛かった事例もある。実施中の中間集計では、配布してからの期間が1ヶ月程度なので、捕獲頭数が上がってこないかもしれないが、今後3月15日の狩猟期間までワナを継続して掛けていただくことで、ワナにも慣れ、捕獲率も向上すると期待している。

引き続き、来年度も講習会を実施しながら、たくさん捕れる仕組みづくりに取り組んでいきたい。

(根小田委員長)

この事業について、了解してよろしいか。

(全出席委員)

異議なし。

(門脇チーフ、大野主任)

ありがとうございました。

～希少野生動植物保護対策事業(環境共生課)～

(高橋主査) 資料に基づき説明。

(堀澤副委員長)

今までに設置した防護柵で壊れた場所はあるか。

(高橋主査)

破損は、石立山の落石地帯でよく見受けられる。毎年、モニタリングに行く際に、筋交いを増やしたり、簡易な修繕している。

来年度の予算では、1カ所修繕する見込みで計上させてもらっている。

(山中委員)

東の山を登ると、一番被害が多いのは石立である。三嶺も一時期はひどかったが、今は石立で山頂が裸地化するのが目に見える状況にある。希少野生植物の保護は、色々なグループが熱心に実施されているが、限定的な場所にならざるを得ない。しかし、ある先生からは今からでもやらなければならないとも言っている。

私たちは、できるだけ多くの県民の方が、現地を見ることを望んでいる。

(高橋主査)

県民の方へのPRも今後していかなければならないと考えているが、希少野生植物の生育場所を公表することにもなる。判断が難しいので、十分に検討させていただきたい。

(片岡委員)

1件当たりのモニタリングの経費が下がっているのはなぜか。

(高橋主査)

モニタリングは設置箇所が増えるごとに経費が右肩上がりになるが、今年度から、毎年調査していたのを3年に1回に見直した。破損の確認は全箇所行うので、1カ所当たりの経費は下がることになる。

(根小田委員長)

この事業について、了解してよろしいか。

(全出席委員)

異議なし。

(倉野補佐、高橋主査)

ありがとうございました。

～環境学習推進事業(生涯学習課)～

(瀬沼チーフ) 資料に基づき説明。

(時久委員)

前年度予算と比較すると削減率が大きいので、指導者の育成ができるか心配している。森林環境税全体の予算が減る中、実施できれば良しと考えたと思うが、本当は、もっとやりたいと思っているか、それとも着実に積み上がっているので大丈夫と思っているのか、どちらか。

(瀬沼チーフ)

当事業は、「学びピア高知」の環境フォーラムでいただいた大きな狙い「子ども達が、身近な場所で、体験を多く触れる」ということを目指すための最初の一步だと思っている。

指導者の資質を向上していくために、カリキュラム化を図って実施しているので、22.4時間ないし、24時間のカリキュラム構成になっている。多くの人を集める講演などでは、指導者の養成としては細かいケアができないので、人数を絞って実施している。

定員を超えても受け入れはしており、部分的にこの部分だけ受講したい、という人にも対応している。ただ、定員数を越えるほどの応募がないので、啓発の努力をまだまだしなければならぬと考えている。

(山中委員)

自然体験が大事だと思っている。極端な話だが、子どもが稲を見て「これは何」と言ったということを小学校の先生から聞き、困った状況だと思った。

前の教育長とも話したことだが、今、高知県では学力、体力が大事だということを積極的に進めているが、それよりも大事なことは、子ども達が自然の中で感受性を強めていくこと。そうすることが、友達とも仲良くできるし、一緒に触れあう友達もできるし、学習・学力増強の基礎となるのではないかなと私は常々思っている。是非、この事業をやってほしい。

指導者養成を修了したメンバーが、事後の継続的な活動ができる仕組みを考えることが大事だと思うが、どう取り組んでいるか。

(瀬沼チーフ)

修了した方については、個人情報保護法もあり、追跡調査は出来きれていない。研修会に参加して顔を見知った方には、色々な場を通じて状況を見聞きするようにしている。

研修は色々な団体や施設から紹介を受けて参加していることも多いので、紹介を受けた団体や施設と少しずつであるが繋がりを持ちながら、活動を継続されていると聞いている。室戸青年の家や野市青少年センターの施設ボランティアになられた方、また、子ども会やネイチャーゲーム協会に研修後加入し、各団体の資格を取られて参加している方もいる。そのような形で色々な団体に繋いでいくことを丁寧に行っているところである。昔、生涯学習という言葉が広がってきたときに、学び自体を目的にし活動に繋がらないという事態もあったが、人数を絞ってやっているのだから、次に繋がっていることは確認できている。

(根小田委員長)

全体の予算が縮小し、この予算も減っているが、保護者向けの講習はやっているか。

(瀬沼チーフ)

今は、保護者がなかなか講習に参加しない。保護者の方が2、3人参加しているが、その方は熱心で次のステップに進む。子どもが大きくなって、時間に余裕をもたれた方とか、第一ステージで仕事の区切りが着いた方とかの参加が多い。余力のある方が参加いただくことは、私共としてはありがたく感じているが、保護者にもっと参加していただきたいという気持ちは大きくある。ただ、なかなか生活が厳しくて難しいと思う。

(林業環境政策課 福田主幹)

当事業の予算減だが、学習プログラムの作成が平成25年度までであり、その金額が大きく減っているのが理由である。

(根小田委員長)

予算減の理由は承知した。この事業について、了解してよろしいか。

(全出席委員)

異議なし。

(瀬沼チーフ)

ありがとうございました。

～高校生森林環境理解事業、高校生後継者育成事業(高等学校課)～

(竹村課長補佐) 資料に基づき説明。

(川村委員)

1 回当たりの取り組みの経費が平成 25 年度と比べ削減されているが、影響はないのか。

(竹村課長補佐)

全く同じ活動でないが、似たような活動を各学校で工夫して実施している。例えば、南高校では、ゴミ拾いの環境整備を学校の取り組みとしてやっている。西校では、吹奏楽部のコンサートを鏡川で行い、聴きに来た方達と一緒にゴミ拾いの環境整備を実施している。山の学校である嶺北高校や構原高校も過去に農業系のコースがあり、その経験を生かしながら環境教育を実施している。そうしたことから、この金額で実施していけると思う。

(根小田委員長)

この事業について、了解してよろしいか。

(全出席委員)

異議なし。

(竹村課長補佐)

ありがとうございました。

**～山の学習支援事業、森づくりへの理解と参加を促す広報事業、
こうち山の日推進事業、運営委員会等開催費(林業環境政策課)～**

(福田主幹) 資料に基づき説明。

(時久委員)

山の学習支援事業で、参加する学校数は。

(吉田技師)

平成 25 年度は 47 校。平成 26 年度は要望段階で 56 校。今年度、新規の参加校が段々減ってきているので、当課の職員が各地域の学校長会などに出向き、当事業の紹介をさせてもらった。その結果、新規の参加学校も増えた。

(福田主幹)

平成 25 年度と比較し、新規の学校は 16 校。取りやめた学校は 7 校となっている。新たに 4 市町村が取り組まれ、16 市町村から 20 市町村となった。

(時久委員)

丁寧に説明に回っていただき、ありがたく思った。学校は外に出て行く活動を本当はもっとしなければならない。学力向上など学校内ですることに集中してしまう傾向がある。高知県の子どもとしては、もっと森林に目を向けて、この豊かさを考えに入れて、大人に育てて欲しい。そのことが高知県を大事にするし、次に羽ばたいていく一番の要素になると思う。香美市教育委員会も当事業をやっていなかったんで、私が着任してからやり始めた。始めると、物部の奥までみんなで行って行き、山に登ったり、ラス巻きしたり、こういう事もやるんだと私自身もびっくりしている。活動が結構大きくできるので、教員も子どもも獲得するものが大きい。動きが悪いのもったいないと思う。

(高橋課長)

今まで当事業はなかなか広がりを持てない、つまり、同じ学校が実施していた。そこで、当課の職員が学校長会や市町村教育委員会などの色々な会に出向き、事業のPRをさせていただき、その結果、新規の学校もでてきた。先生としては実施したいという意識を持っていても、手前段階のカリキュラムに入っていなければ、こうした事業を実施することは難しい。補助対象は『年間を通じて』となっているので、単発の内容は各学校で実施している。引き続き、具体的にどのようなことを実施していけばいいかを考えていきたい。

(時久委員)

説明してくださったことは、とても大きい。説明を聞いていた学校が、補助金を受ける学校が多く増えると補助金が減ると、笑い話のような心配をしていた。本当に実施校が増えていけばよい。学校が一番使いやすいところは、山に行くためにどうしてもかかる交通費、バスの借り上げなど、色々なところに使えるところ。やり出した学校は、とても助かっている。

(井澤課長補佐)

私が直接、指導主事などの会で説明させていただき、直接、色々な意見などもお伺いした。予算的なことも大きい話だし、色々なことをしなければならない中、環境教育で校外に出て行く難しさもお聞きした。けれども、私どもも今までこうした説明自体もあまりしておらず、今回の説明を通じて、色々な意見を聞いたこと、それを踏まえて県としてどのようにアプローチしていくかということもはっきりしてきた。引き続き、こうした取り組み、教育委員会との連携を進めていきたいと思っている。

残念なことは要望額が約 1,400 万円だが、基金の残額が限られているので、前年を下回る予算の計上となっている。できるだけ、手が挙がってきた学校については、調整し、実施していただけるようにしたいと考えている。また、委員の皆様にもできれば各地域でPR

していただきたい。

(林委員)

mamori のアンケートを実施すると聞いたときは、どの程度回答してくれるか不安であったが、思ったよりもきちんと返ってきていると思った。内容を見て、ここから得ているものが多いと全体で感じた。アンケート取ったこと自体もいいし、回答を受けた内容をこれからも続けて行くべきだと思う。

(井澤課長補佐)

アンケートの内容は、mamori の編集会議でも、議論をしていきたいと思う。今まで分からなかった部分もはっきりしてきたこともある。小学生低学年には難しいという意見も多くいただいた。活用については、家庭に流しっぱなしの学校も多かった。今後の mamori の活用方法としては、環境学習において、教科の副教本でも活用できるのではないかとの意見も多くいただいたので、そういう面も PR していきたい。このアンケートを生かしていきたいと思う。

(根小田委員長)

この4つの事業について、了解してよろしいか。

(全出席委員)

異議なし。

(福田主幹)

ありがとうございました。

～木の香るまちづくり推進事業(木材産業課)～

(谷脇チーフ) 資料に基づき説明。

(堀澤副委員長)

質問ではないが、だいぶ長くこの事業を実施してきたので、街の中にもバス停やスーパーにも木が増え、いいなというところが増えてきている。私のような関係者でない方も、良くなったと言ってもらえたりすることも多く、非常に進んできたなと考えている。願わくば、この補助金以外のところでも、木がもっと欲しいと思うこともある。

もう一つ。木を伐ってもいい、使って欲しいというアピールを引き続きやっていただき

たい。未だに学生の中には、木を伐ってはいけないと思っている方もいる。そうした方もいるので、PRをしていていただきたい。

(谷脇チーフ)

この事業を使っているものは、学校の机にしても、一つ一つ、森林環境税を活用しているシールを貼っている。今年、スーパーで木質化をするところもあり、色々なところで、森林環境税が目に見える形で使われてるというPRにもなっている。

補助以外でもということも、言われるとおりなので、率先して県や市町村の公共施設に使うため、全市町村で、国が進める木造化を第一に考えるという方針を立てたところである。県は、次は実行だということをして市町村にお願いしている。予算もあり、全てが一度に変わらないが、まず、県や市町村の公共施設で木を、最低でも木質化をしていくという形で進め、民間にも広げていきたいと思う。木を使うことの大切さを、持続可能なものにしていくには、山の手入れだけでなく、木を使うことが必要なことは、委員の言われるとおりなので、色々な機会を通じて、公共施設で木造化、木質化をPRする中でも、県民の方にも木を使うことをアピールしていきたいと思う。

(山中委員)

事業を導入したスーパーによく買い物に行くが、マークは分かりづらい。もう少し、大きくするか、カラー刷りにするか、分かりやすくする必要がある。多くの方が気がつかないので、検討していただきたい。

(谷脇チーフ)

できるだけ、大きい空間には大きいシールを貼っていただいているが、大きさがA4サイズよりも少し小さなシールなので、一度、検討させていただきたい。

(根小田委員長)

この事業について、了解してよろしいか。

(全出席委員)

異議なし。

(谷脇チーフ)

ありがとうございました。

(根小田委員長)

個々の事業の議論は終わったが、全体を通じて意見はないか。

(山中委員)

森林環境税の額の検討を今から始めるべきではないかと思う。総枠にして、1億5,6千万円で経過しているが、事業計画や実施内容を踏まえると、もう少し、大胆にお金を配分してはどうかと思うこともある。今日の話でも、基金が圧迫し、予算の限度もあるので、私は額の検討をすべき状況ではないかと思っている。

(高橋課長)

税収は1億6,7千万円ぐらいで変わってはないが、基金の積み残しが結構残っていたので、今年は2億3千万円ぐらいの予算を組むことができた。今は使い切るという方針にしたので、段々積み残しがなくなり、税収そのままということになり、予算はかなり厳しくなっている。

税額は5年に一回見直している。見直したばかりなので、今の話を含めて、次回に向けて検討していきたい。現在、森林環境税は都道府県に導入されているが、国の方でも、税源対策を検討している。高知県は、温暖化対策税、石油税などに一定課税して、その分を吸収源対策に回してもらうことを毎年、要望している。経産省の反対が強く、国の方で検討会を設けることになっているが、なかなか実現していない。また、色々な県の森林環境税を、全国の税としてまとめてやりたいというような話も出てきている。

なお、各県見ると、金額が多い県で1人あたり700円だが、一人あたり500円の県が多い。企業は何%ということが多い。そうしたことを踏まえ、皆さんの意見を聞きながら、今後検討していきたい。

(根小田委員長)

国の多面的機能交付金、これは政権交代以降ですか。

(高橋課長)

今年度からの新規事業で、国が全額負担している。高知県の地域協議会である高知県森と緑の会が国のお金を受け込み、事業内容に応じて、各団体へ交付している。

基本的に森林保全ボランティア活動や竹林の整備などの整備事業に対して交付している。大きいことは、今までは基本的に報酬なしでやっていたが、一定賃金的なものも対象となったこと。チェンソーを買うことも対象になる。高知県は取り組みを進めたこともあり、全国で一番、国から交付をいただいている。

(根小田委員長)

中山間地域の農業は別問題なのか。

(高橋課長)

農業は別であり、これは林野庁の事業である。県を通さずにやっているの、見えにくい面もある。県の事務費が、チェーンソーの安全講習なども対象になるので、来年度は、さらに財源を振り替え、回数を増やして実施していきたい。

(根小田委員長)

他にないようなら、本日の会は終了したい。

(井澤課長補佐)

26年度の予算については、委員会としてはご了承いただいた。

今後の予定は、知事査定が1月末から2月上旬。そこで予算案を決め、2月県議会に上程する。3月の閉会で予算内容が確定する。

今日の案と来年度の予算がほぼ同じであれば、文書で報告し、委員会は開催しないことも考えている。そうすると次の委員会は5月になり、平成25年度事業の実績報告をさせていただくことになる。

(全出席委員)

異議なし

2. 林業環境政策課長挨拶

以上で閉会